



## ランチェスター協会 報告レポート 第1号

# 第222回 戦略研究会 報告

2016年3月2日 ランチェスターホール(協会常設会場)

発行  
特定非営利活動法人  
ランチェスター協会  
編集責任者  
特定非営利活動法人  
ランチェスター協会  
インストラクター委員会

### ～講演～

## 「ランチェスターの法則で読み解く、織田信長の強者の戦略、真田幸村の弱者の戦略」

講師：福永雅文 協会常務理事研修部長／戦国マーケティング株式会社代表



第一次世界大戦時にイギリスのF.W.ランチェスターが提唱した「ランチェスターの法則」。戦争における戦闘の勝ち負けのルールです。これを戦略思想の原点として

経営領域に応用し、理論化・実務体系化したものが「ランチェスター戦略」です。今回の研究会は、ランチェスターの法則が成り立っているのか、テレビ番組での公開実験を監修した福永より、報告がなされました。

番組とは「風雲！大歴史実験 戦国鉄砲隊 ～織田信長 軍事革命の秘密～（NHK BSプレミアム15年7月25日放送）」。「織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼が1575年に戦った「長篠の戦い」。連合軍の兵力3万8千と武田軍1万5千が戦い、武田軍に発生した損害量（戦死者）は1万人以上に対して、連合軍の損害量は1千人程度といわれます。なぜ、そのような大差がついたのか。ランチェスター第二法則が適用したと考えれば整理がつく、との仮説を福永は以前から提唱しており、番組制作に係わることになったのです。

前近代的・ゲリラ的な戦闘を、同等の武器で両軍が戦えば、両軍の損害量は均衡するというのが第一法則です。実際に前近代である戦国時代のほとんどの戦の両軍の損害量の差は大きくありません。ところが、「長篠の戦い」のみは大差がついている。それは近代戦の場合は両軍の損害量が兵力数の2乗に比例するとの第二法則が適用しているはず。30秒程度に一発ずつしか撃てない火縄銃であっても、集団的運用することにより、機関銃のような近代兵器したのではないかと。30丁あれば1秒間に1発、300丁あれば10発、3000丁あれば1

秒間に100発撃つことができます。火縄銃を機関銃化し、戦国の戦を近代戦化したとの仮説です。

番組ではサバイバルゲーム愛好家たちによる戦闘で、それを実証します。その結果、仮説は成立していました。信長は第二法則が成り立つ近代戦を強者の戦略で戦ったのです。ランチェスターの法則が成り立っていることが証明されました。

信長の軍事革命により、量が多いものが勝つ傾向がさらに強まり、戦国の世は統一へと向かいます。そんななか、真田幸村はどのようにして小が大に勝つ戦ができたのか。ランチェスター第一法則から導き出される「弱者の戦略」で戦ったからに他ならないと、真田の戦を例示して解説しました。実験結果も含めて、今回の講話の詳細は福永の近著「ランチェスターの法則で読み解く 真田三代弱者の戦略（日本実業出版社）」で解説されています。ご興味あれば一読ください。

## 会員によるランチェスター戦略実践報告

講話の後、「ランチェスター戦略の実践事例報告」



がなされました。今回は埼玉県で自動車教習所ファインモータースクールを運営する(株)白田の山下一氏(当協会認定インストラクター)より、地域戦略の

取組み事例が報告されました。同社は顧客(入校者)を地図上にマッピングし、地域内シェアを測定。重点エリアを定め、販促・営業活動にメリハリをつけて実施したところ、販促費を下げながら、入校者を増やし、一入校者あたりの販促費の大幅削減に成功しました。

(報告者:協会事務局)